

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別講義
科目基礎情報					
科目番号	0088		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	経営情報学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	松野 成悟				

到達目標

- ①経営管理に関する企業の動向や最新の研究について説明できること。
 ②システムや情報技術に関する企業の動向や最新の研究について説明できること。
 ③社会人としての心構えと技術者の役割について説明できること。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1	経営管理に関する企業の動向や最新の研究について説明できること。	経営管理に関する企業の動向や最新の研究について3 / 4 程度説明できること。	経営管理に関する企業の動向や最新の研究について3 / 5 程度説明できること。	経営管理に関する企業の動向や最新の研究について説明できない。
評価項目2	システムや情報技術に関する企業の動向や最新の研究について説明できること。	システムや情報技術に関する企業の動向や最新の研究について3 / 4 程度説明できること。	システムや情報技術に関する企業の動向や最新の研究について3 / 5 程度説明できること。	システムや情報技術に関する企業の動向や最新の研究について説明できない。
評価項目3	社会人としての心構えと技術者の役割について説明できること。	社会人としての心構えと技術者の役割について3 / 4 程度説明できること。	社会人としての心構えと技術者の役割について3 / 5 程度説明できること。	社会人としての心構えと技術者の役割について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	企業や大学などで活躍されている経営管理者や研究者・技術者（外国人を含む）を特別講師として招聘し、最近の先端分野における話題性の高いテーマや最新の研究動向を主な内容とする科目である。最先端の経営管理論をはじめ、会計制度とその運用、企業の経営管理技術、技術経営、情報システム、ベンチャーの起業などを理解することが求められる。 時間割には明示されないが、適宜卒業研究などの時間と振り替えることで、年間を通じて履修単位1単位分の講義を行なう。
授業の進め方・方法	今年度は、宇部市主催の「テクノロジー×アート」チャレンジ講座を受講を優先する。
注意点	外部講師の都合により、講義のタイトルや順序を変更して行う場合がある。 欠席した場合にはレポートを提出できないので注意すること。また、外部講師の方々に対して失礼のない受講態度を求める。授業中に居眠りや内職をするなど態度の悪い者や、杜撰なレポートを提出する者に対しては適宜注意・指導を行い、それでもなお改善の見られない場合にはより厳しい措置を講ずるものとする。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	第1週～第14週 「テクノロジー×アート」チャレンジ講座	講義の内容をまとめるとともに、関連事項を調査してレポートを作成する。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週	定期試験は実施しない	
		16週	授業改善アンケートの実施	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれていた状況に配慮した行動をとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	

			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。 3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。 3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。 3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 3	
			企業には社会的責任があることを認識している。 3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。 3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げるができる。 3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。 3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。 3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0